



稚内支部

田村 栄章
Yoshiaki Tamura

こちらが掲載される頃にはすっかり肌寒くなっていると思いますが、少し時間を戻して、今年の稚内の夏についてお話しします。

稚内といえば「日本最北＝風強い＝寒い」

というイメージを持たれる方も多いと思います。まさにその通りで、年中風が強く、見渡せば風力発電の風車ばかり、多くの市民は「25度いったら暑くてムリ。動けない」が口癖です。なので市内では20度を超えたら、ここぞとばかりに庭BBQ(もしくは車庫BBQ)が始まります。

そんな稚内ですが、今年はちょっと違いました。

最高気温の記録更新(32.7度)、7月は平均気温の高さ・日照時間の長さが歴代1位、降雨量は6ミリで歴代2位の少なさ。かと思えば、稚内近郊の沼川という地域では8月12日に最低気温が2.6度になるという色々と記録的な夏でした。

32度くらいで…と大多数の方が思われたかもしれませんが、暑さに慣れていない地域にとっては大変です。3年前の夏、私の祖母も暑さで具合が悪くなり、家に行くと窓も開けずに室温は34度。聞くと「稚内は涼しいからもう何

年も窓は開けたことがない」と言うのです。いやいやいや…と思いましたが、これは祖母に限ったことではなく「網戸ついてないから」とか「風が強いから」「開け閉めが大変だから」という理由であまり窓を開けない方もいるようです。街中では長袖で歩いている方もいて、お年寄りには暑さへの対応が難しいのだなぁと感じました。

過去の気温が気になったので、気象庁のHPで確認してみると、前回30度を超えたのは、なんと21年前の2000年。さらに過去70年間で30度を超えた年は4回しかなかったのです。なかには年間の最高気温が23度くらいの年もあり、「確かに涼しいな。ばあちゃんゴメン」と反省しました。そんな稚内で今年は真夏日が5日もあったので、熱中症で搬送された方も多かったようです。

また、宗谷地方は漁業が盛んな地域でもありますが、近年、昔はいなかったマグロやブリが獲れるらしく、海水温とか大丈夫?と心配になります。もう既に何か変わってしまったのかもかもしれません。

最近、SDGs、SDGsとよく耳にします。どこか遠いような存在として聞いていましたが、全くそんなことはなく、むしろ影響を受けやすい地域に住んでいるんだと再認識させられる、そんな夏でした。